

## 【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

# 税金と文化

学校法人文徳学園文徳中学校

三年 榎本 悠希

私は以前から、税金は道路や学校、病院などの公共サービスに使われることを知っていました。しかし、イギリスの短期留学によって税金の大切さを更に実感しました。特に印象的だったのは、ロンドンの有名な博物館や美術館を無料で訪れることができた体験です。

ロンドンに到着して数日後、みんなで大英博物館に足を運びました。世界三大博物館の一つと知られる施設ですが、入口で驚いたのは入場料が無料ということでした。わたしが見た場所は全て無料で公開されていて、訪れた人だれもが世界中の文化財や遺跡、有名なミイラやギリシャ彫刻、ロゼッタストーンなどを気軽に鑑賞することができました。回り切れない展示物の数にはもちろん驚きましたが、文化を知る機会がこんなにも広く開かれていることへの感謝の気持ちも生まれました。

他にも、ナショナルギャラリーや自然史博物館など、評価が高く、見どころの多い施設の入場料もかかりませんでした。ナショナルギャラリーでは、名画の前で静かに鑑賞する学生や家族連れを見かけました。写真を撮ったり、作品説明を真剣に読んでいたり、誰もが身近に芸術に触れることができていました。私は、「日本では美術館や博物館のほとんどは入場料が必要なのに、イギリスではどうして入場料が必要じゃないのだろう」と疑問に思い、美術館のスタッフに聞いてみました。すると、「全ての人に文化に触れられる機会を与えたいという考えがあり、博物館や美術館は補助金や税金によって支えられています」という返しがきた。

私は、ナショナルギャラリーへ二度行きましたが、どの施設も気軽に何度でも訪れることができるようでした。また、場所によつては展示替えも頻繁に行われるため、通っている地元の人には新しい作品との出会いを楽しみにしているそうです。自分を含め、普段芸術や歴史に親しむ機会が少ない人たちも、自由に芸術に触れることができる環境となっていました。私は、税金が生活に必要な道路や医療、学校などの施設を支えるだけでなく、文化や芸術の振興のためにも役に立っているのだということに気付きました。

この留学を通じて、税金の大切さは国民の義務というわけではなく、「みんなが支え合って学び、楽しむ社会をつくる」ものでもあると理解できるようになりました。大人になってからも、自分が納める税金が社会や文化のために役立つことを意識して生活していきたいと思いました。